

1: 出席者

加藤^a・大西^b・千葉・能登・片山・大塚^c・セルゲイ^c・簀口^c・須田^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- McLane 氏が 2 月 8 日に来札する予定である。(加藤)
 - セミナーや学生の教育を行なってもらいたい。
- SPES の改良を行なった。(須田)
 - Daniel Archive の検索速度が大幅に向上した。
 - EXFOR のデータに関して、ENDF quantity でも検索が行なえるようになった。
- 新井氏によるグラフ読み取りシステム(GSYS)の改良版をテストした。(簀口)
 - 精度は 3 桁程度で、操作性も向上した。
 - グラフ読み取りの製品版と比較しても十分に勝る性能を誇る。
- EXFOR のファイルを 3 編 IAEA に送信した。
 - エントリー 3 件、新規論文 4 8 編
- DARPE に関するプログレスレポートを原研に提出した。(セルゲイ)
- DARPE のアクセス解析を行なった。(セルゲイ)
 - 2004 年 1 月から 951 件のアクセスがある。
 - 世界各国からのアクセスがある。
 - DARPE のロゴ(リンク)を JCPRG のトップページに配置してはどうか。

3: 議論

- McLane 氏来札の際の作業について
 - 過去に採録された NRDF のアメリカで行なわれた実験データのうち、EXFOR へ未変換のものを
変換する。
 - HENDEL の世界の機関への配信のために英語のマニュアルを作成する。
- 新規コードについて
 - ABST: 再検討(展開形の説明が不十分)
 - ABSORP: コードの使い方に関するコメントを付加する。
 - SISD or SI-STRP: SI-STRP を採用とする。
- 文献チェックについて
 - 採録された論文のリファレンスをすべて登録し、未採録論文のデータベースを作成するという提
案があった。
 - 試験的に実施してみることとなった。(実行時間、該当数、該当率を測定)
- サーバーの現状と運用について

- 今後の議論に持ち越すこととする。
- S型辞書について
 - 特に廃止はしない。

4: 次回

2005年1月24日 18:30~